

# 城山会報

## 第 49 号

**同窓会事務所**

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町 1-1

福岡教育大学同窓会 城山会事務局

TEL / FAX 0940-33-2211

e-mail jouyamakai@able.ocn.ne.jp

発行者 会長 太田 勝視

発行日 平成30年12月28日

印刷所 松古堂印刷株式会社



表紙写真 提供：福岡教育大学（上段）、附属福岡小学校（下段）

**目次**

同窓会会長あいさつ .....	2
学長あいさつ .....	3
平成30年度夏期研修会、大学支援委員会 .....	4
第6回新卒・若手会員情報交換会、大学への支援活動 .....	5
支会活動報告 .....	6
青年部の取り組み .....	7
福岡教育大学の将来を考える .....	8
わたしの教育実践 .....	9
会員に聞く＜対談＞ .....	10
大学時代の思い出 .....	11
第二の人生を生き生きと .....	12
教師をめざして .....	13
教員採用試験の状況 .....	14
平成30年度役員組織、事業実績 .....	15
城山文藝・編集後記 .....	16

# 城山会旗の下、みんなの力の結集を —— 広げよう・深めよう！同窓の絆 ——

会長 太田 勝視



今年も厳しい異常気象や自然災害に見舞われました。7月初めに西日本を襲った豪雨災害、広島県内では、15,000棟以上の住宅に被害が及びました。広島県には城山会の支部はまだありませんが、多くの本学同窓生や被害を受けられた

方々に城山会として募金活動を行いました。私たちの心ばかりの気持ちを、被災地の同窓生代表 林保氏を通じて熊野町の三村裕史町長にお渡ししました。被災地の一日も早い復旧・復興を祈り、会員の皆様にご報告とこの取り組みへのお礼を申し上げます。

さて、平成2年8月、現城山会として四者(鶴陽会・富陵会・壬戌会そして福岡教育大学同窓会)の完全統合がなされ、一大学一同窓会の歩みがスタートしました。統合体「城山会」として新たなる出発以降、「真の一本化は支会づくりで具現化される」という考えのもと、「支会組織の確立」「活動の活性化」を柱として活動を展開してきました。

完全統合から29年目の本年も、各県支部・各支会の会合には可能な限り参加をいたしました。各県支部・各支会の活性化に向けては、支部長・支会長を中心とする役員会の強い指導力が感じられました。会議・会合での会員参加者の増加や参加世代層の拡大、特にどの会でも若い人の参加が増え、活気が感

じられたことは大変喜ばしいことであり、取り組みの成果でもあります。しかし、若い会員の参加拡大に反して、退職会員への活動参加の働きかけが難しいという課題もあります。

また今年の重点課題である新規採用・若手会員の組織化に向けては、多くの支会でその地域の実情に合った青年部組織が出来ています。工夫された活動を行っている支会もあります。今後は更に、青年部を主体とした事業等も進めていきたいと考えています。女性部についても「2月のつどい」など青年部と連携をとりながら、積極的な活動の推進を図っています。

昨年度より、各県での保護者説明会に、大学・後援会と一緒に同窓会も参加をしています。保護者と直に懇談ができ、同窓会活動や城山会への理解をしていただく良い機会となっています。そして、本学学生の出身県別学生数が、九州各県、山口県、広島県、いずれも100人を超えていることが分かりました。学生支援のためにも、早急に各県支部づくりの拡大と活性化を目指し、まず本年度は大分県支部の発足に取り組みます。

終わりに、来年度は福岡教育大学創立70周年、城山会完全統合30年目という節目の年にも当たります。今年度は城山会旗を制作・配付の計画もあります。今後の城山会の展望を拓くためにも、城山会旗の下、各県支部・各支会の精力的かつ積極的な対応、そして会員各位のより一層の奮起を期待します。

平成30年度  
定期総会  
開催

第43回定期総会は平成30年4月29日(日)11時より、福岡市博多区の「八仙閣本店」において、城山会顧問、歴代会長、各県支部の代表をはじめ162名の会員の参加を得て盛大に行われた。冒頭の挨拶の中で太田勝視会長は近年の組織の確立と活動の活性化の成果を語られ、関係者の尽力に対し謝辞を述べられた。また、母校の発展に寄与する同窓会としての様々な取組を紹介された。来賓祝辞では、福岡県議会議員の今林久氏が「同窓会は究極のボランティアです。その絆と誇りを大切にしましょう。」と力強く激励された。

# 「九州教員研修支援機構（仮称）」の 設立に向けて

福岡教育大学 学長 櫻井 孝俊



最初にお断りします。表題の「九州教員研修支援機構（仮称）」は、国の「教職員支援機構」とは、全く別のものであり、その九州版でもありません。よく似た名称になっていることが、大きな誤解のもとに

なっています。もっと相応しい名称が必要だと思っておりますが、その趣旨を考えると、ほかに思いつかないところです。

この機構（仮称）設立の趣旨は、九州各県等の教育委員会と教員養成機能を有する大学等が協働し、教員研修をはじめとする教育課題について、情報の提供・共有を図るとともに、教員研修のプログラム開発等を行う体制を整備することにあります。その成果として、九州各地域における教員研修の質の向上、効果的・効率的な研修の実施、並びに研修コストの縮減が期待されます。

この3年間、文部科学省の受託事業として、次の取り組みを行って参りました。平成28年度には、「九州地区教員育成指標研究協議会」を設け、教員育成指標のモデルを策定しました。これはなかなか好評で、8つ以上の教育委員会で活用されました。昨年度は、「九州地区教員養成・研修研究協議会」を立ち上げ、育成指標に基づく研修の体系化を図りました。これらの協議会には、沖縄を含め九州地区全て

の国立大学教育学部や本学近隣の私立大学の先生方と各県の教育委員会や各政令市の教育委員会に参加いただきました。是非このような協議会を今年も続けてほしいとの強い要望を受け、「九州地区教員養成・研修研究協議会」を継続開催し、研修の質保証と研修の効率化について協議を行います。このような取組みを文部科学省に高く評価され、機構（仮称）設立の予算措置を獲得しました。

本学では、この機構（仮称）設置の準備室を立ち上げ、川添弘人理事を室長に、中藪宏特任教授を配置し、九州各県にある10の国立大学に設立趣旨説明を終えました。9月からは、各県の教育委員会、各政令市の教育委員会へ説明を行っているところです。教員研修を行う教育委員会では、教育課題についての情報の共有や専門的知見のある大学と連携して研修の充実が図れると、概ね好意的な理解が得られつつあります。この機構を今年度中には立ち上げ、機構最初の協議会を開催したいと思っています。機構への参画のご案内を、大学や教育委員会に年末までに行う予定です。

本学は、九州の教員養成拠点大学として、教員のライフステージ全てにわたって支援を行うことを明言しています。養成から育成までの支援を行うに当たって、同窓会に期待されることは、ますます大きくなってきます。これからも更なるご支援とご協力をお願いいたします。

議事は、水崎浩克議長のもと第1号議案から第6号議案まで原案通り可決された。本年度新たに青年部については県組織の発足のための活動費が計上された。また、各支部・各支会に掲げる「城山会旗」をつくることについても理解と賛同を得た。退任者への感謝状は前副会長の古賀孝敏氏、前幹事長の西 祐治氏へ贈られた。なお、総会後には懇親会が催され、156名の会員が旧交を温め、将来への夢を語り合った。

(幹事長 田中 和隆)



## 夏期研修会報告

## 熱き思いを共有する

平成30年8月5日(日)午後1時30分より、福岡リーセントホテルにおいて、各県支部会員を含む総勢138名が集い、平成最後の夏期研修会が開催されました。

まず、太田勝視会長からの挨拶では、西日本豪雨の被害にあわれた方々への哀悼の意を表した後、以下の3点を述べられました。

- ①大量採用の時代になり、各地区支会における青年部の組織化・充実化がさらに必要となっていること。
- ②大学後援会保護者会において、城山会の説明を行い、保護者とともに歩む城山会にご理解をいただいたこと。
- ③学長が掲げている採用90%をめざしている大学に本会も積極的に協力していきたいこと。

また、来年度は、城山会完全統合30年という節目の年になる。各支部・本部ともに組織的に充実した会にしていくとの決意を述べられました。

次に、本年度担当地区である南筑後会長である安徳副会長から本日の会の目的と流れについて説明があり、田中幹事長から定期総会からスタート

した本年度の事業の報告と今後の事業計画の確認がありました。

その後、矢野副会長を座長に議事に入りました。本年度の提案は、北九州地区と北九州市支会からでした。北九州支会からは、中間支会の井上俊子氏から「女性部の取組」を提言されました。城山会活性化に向け、「支会をつなぐ・行事に積極的に参加する」ことが大切であると考え活動している。具体的には役員になり発言すること、また参加人数の拡大を図るために、女性支会代表者を現職と退職者の2人体制を取り入れたことを発表されました。北九州市支会からは、幹事長の花田博之氏が「支会活動の活性化に向けて」と題して、支会の現状と事業内容の報告の後、課題として同窓意識を高める必要性等を述べられました。魅力ある同窓会にするために、青年部・女性部・同窓のつどい等魅力ある講師の選定を中心に長年継続している行事を地道に継続することが大切であると主張されている姿が印象的でした。

講演では、前八女市教育委員長・大学支援委員会副委員長の城後武史氏から「これからの城山会への期待」と題して、自らの教師人生の歩み・城山会の歩み、さらに未来への期待を熱く語っていただきました。

研修会終了後の懇親会では、会員相互の交流・親睦が図られ、熱き思いを共有できた有意義な会を終えることができました。(副幹事長 鍋島 直明)

## 平成30年度

## 福岡教育大学支援委員会報告(概要)

日時 平成30年12月15日(土)11時～ 場所 八仙閣  
参加者 大学・支援委員・城山会役員等(総計34名)

先に顧問会議の結果を簡単に紹介し、その後、支援委員会の内容を中心に述べます。

顧問会議では、支援委員会委員の若返り、未来奨学金等の大学支援のあり方、城山会旗作成等の事項が承認されました。

大学支援委員会では、初めに太田会長、次に毛利大学支援委員会事務局長、最後に櫻井学長の順に挨拶がなされました。学長挨拶の中で、まず本会先輩役員や鶴陽会から寄付がなされたことに対するお礼、続いて①大学法人化に伴い運営交付金が継続的に毎年度約1%の削減が行われていることによる財政悪化、②教員数を削減しても、なお、大学全体の事業費に占める人件費の割合が80%程度であり、運営費不足の状況であること、③31年度が第三期中期目標達成状況中間報告年度であること、④諸費の節減に努めながらも大学運営を着実にやっていること、⑤小学校教員養成課程は、専修制を廃止した三年生以下の学年では、教員志望率が90%以上であること等が報告されました。

続いて永富参与から、平成30年に教員採用試験を受けた二次試験最終合格者が昨年度よりも11

名減少したことが報告されました。その減少原因の分析に触れ、より一層のきめ細かな指導の必要性が強調されました。次年度に向けて、緻密な方策を検討し対応していく決意が語られました。その際、各県や政令市の二次試験の特徴に応じた面接や模擬指導等を行う場合には、どうしても人手不足は否めないとの報告がなされました。質疑応答後の終わりの言葉では、中島大学支援委員会副委員長から、大学に全面協力する旨の力強い決意が示されました。

懇親会では、大学職員紹介の中で前谷事務局長から「31年度に教育大学創立70周年記念行事等を含め、女子寮改修も予定しており、経費不足への協力依頼」がなされ、参加者には概ね理解されました。

報告事項は、次年度に向けた役員会で精査し検討する必要があると感じております。

(文責 本部副会長 谷 友雄)



支援委員会の様子

## 第6回 新卒・若手会員 情報交換会

組織部・青年部

10月27日(土)、母校福岡教育大学で新卒・若手会員情報交換会が開催されました。午前中は、若手の先生の実践発表と教育大学支援センター長・生田教授主導による交流会が行われ、午後は青年部主導のレクリエーションが行われました。参加者は約130名で、そのうち現役の学生が約30名でした。実践発表はどれも素晴らしく、卒業して数年でここまでやれるのは、本当に立派だなと感じました。また、交流会は5人グループの中に必ず学生が入るという形で行われ、特に、学生が教育にかける情熱をしっ

かりもち、堂々と話していた姿が印象的でした。昼食時には、若手の先生方が、学生だけでなく、初めて出会った先生やOBと熱心に話をしている姿が見られました。この時、青年部長として感じたことは、お互いが指導・助言を「する」「受ける」という関係ではなく、単に同窓の仲間として話をしていることです。改めて、同窓、同窓会の良さを感じました。

今は、現場でもほとんど出身大学についての話はしません。しかし、一人でも多くの先生に、大学時代を懐かしみ、心地よい時を過ごして、次の仕事の活力にしてほしいと思います。また、現役の学生には、未知なる現場に夢を馳せ、ふつふつと沸き上がる教育に対する思いをもって、学生生活を謳歌していただきたいと思います。

(青年部長 中原 大樹)



3名の実践発表者



実践発表風景

## 城山会 学生支援活動紹介

城山会は、大学へ下記の学生支援活動をしています。

- ◎未来奨学金 ◎学生ボランティアへの支援
- ◎大学支援・学生サークル全国大会補助
- ◎教育実習・介護ノート寄附など

この中で、「未来奨学金」と「学生支援ボランティア」への支援について紹介します。



未来奨学金授与式

「未来奨学金」とは、平成24年度より、大学改革の一つの目玉として作られたものです。教員になること、学業に励むことを前提に、留学して見聞を広めたいという意欲ある学生に奨学金を給与する仕組みです。返済の必要はありません。大学として、基金を設けていますが、同窓会も一部を支援しています。学業成績優秀者と国際交流協定校への派遣希望者から選考し、20数名の学生を対象に、毎年7月に授与式が行われています。

「学生ボランティアへの支援」は、幼稚園での保育活動、小・中学校での学習指導の支援、地域ボランティア活動を教育の一環として位置づけ推進しているものです。ボランティアの依頼件数や学生の参加数が年々増加し、29年度は2,000名の学生が参加し、依頼件数320件でした。また、本年度採用された教員の中には、自分がボランティアで活動していた小学校に採用された学生がいるとのことでした。

(副会長 阿部二三子)

# 支 会 活 動 報 告

## 新たなスタート

小郡・三井支会 支会長 福永 昌也

本支会は、筑後地区の北部に位置し、小郡市と大刀洗町とで構成されています。毎年、支会総会を7月末ごろに開催し、本年度で39回を数えています。会員数は、現職が約150名、退職会員が100名程です。

本支会では、これまで、城山会の先輩同窓会である鶴陽会とも良好な関係を保持しつつ活動してきました。総会についても、お互いに日時を調整し、同一会場で開催することで、総会後の懇親会も合同で開催してきたところでした。しかし、本年度は、鶴陽会県本部の解散に伴い、本支会においても、城山会と鶴陽会を完全に一本化し、城山会小郡・三井支会として、総会を開催したところでした。そのため、支会の会員名簿も退職会員を含めた新たなものに作り直しました。

今後の課題としては、総会以外の活動が役員中心に偏りがちなことと、青年部の活動が組織を立ち上げたものの、具体的な取組に至っていないことがあげられます。本支会のさらなる発展に向けて、取組を進めていきたいと思っております。

## 会員相互をつなぐ取り組みを

山田支会 支会長 甲斐 治夫

山田支会は、嘉麻市山田地区（旧山田市）の小学校3校と中学校1校を擁する小さな支会です、師範学校の時代から多くの人材を輩出し、地域の教育振興に大きく寄与してきました。

本支会では、会報の配付はもとより、総会では、会員相互の親睦を図り、お互いの活力を養ってい

ます。特に平成26年度の総会では、本会員である松岡前嘉麻市長の退任祝賀会も兼ね、盛大な会になりました。総会は本支会の会員相互をつなぐ大切な取組になっています。

本支会は、学校数がわずかで若手教員の数も少なく、近年は福教大卒の新採教員も少なくなっています。そのような中、昨年度3名の中堅教員が本会に加入しましたが、福教大卒がいない現状に変わりはありません。

今後、若手教員を支会につないでいく青年部の組織化の取組が必要になっています。

## 現状打破の試み

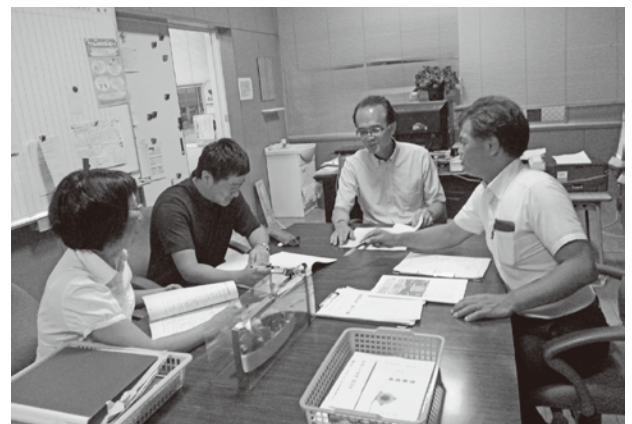
柳川・みやま支会 支会長 原 猛彦

城山会の支会活動について、近年、師範学校や学芸大学を卒業されたOBの高齢化や現職会員の減少に伴い、支会総会の案内や会費の徴収が困難になってきたという話をよく耳にします。柳川・みやま支会においても然りです。

これまで、エリア内の各小学校に現職会員の連絡員を置き、総会の案内や会費の徴収などを行っていましたが、現職会員が一人もない学校が少しずつ増えてきました。このままでは危ない、ということで龍 祐之前支会長を中心に組織改革がなされ、現職会員に代わって各小学校区在住のOBに連絡員をお願いすることにしました。当初は、OB会員からお叱りの声上がるのではないかと戦々恐々としていましたが、「城山会のためなら…」というお声をたくさん頂き、手ごたえを感じています。



支会総会 平成 26 年 6 月 27 日 常磐館にて



役員会

## 青年部の取り組み

### 同窓生のつながりの強化を目指して

直方支会 中村 芳雄 H21卒

直方支会は、平成27年度から青年部の活動が始まりました。直方支会青年部の活性化を目標に活動を行っています。

青年部が発足するまで、城山会の存在を知らない会員も多く、発足当初は会員への連絡が行き届かないことが多々ありました。そこで、各中学校、中学校区の小学校に青年部の代表者を設置し、各校の会員の把握や連絡をお願いしました。その結果、各代表が連絡を密に取り合い、青年部としてのまとまりができてきました。夏休みなどの長期休暇に青年部会を開き、青年部の取組について話し合いを進めています。そして、直方支会では、毎年『青年部会員の歓迎会』を開催しています。この会の目的は、新卒・若手の会員に横のつながりをつくってもらうこと、会員同士の交流を深めることとしています。毎年多くの会員に参加していただき、交流を深めています。会には支会長、幹事長にも参加いただき、青年部の活動にも協力していただいています。また、総会では青年部の代表者が、これまでの実践発表を行うなど、青年部の活躍を発表する場も設けていただいています。

直方支会の課題は、小中学校の会員の連携です。直方市は4中学校、11小学校の計15校の学校があります。歓迎会を行っています。他校区の先生方

との交流ができていないのが現状です。そのため、同窓生であることすら知らない人もいます。昨年度、初めて青年部による研修会を行いました。参加人数は少なく、会としては寂しいものとなりました。青年部としての活動を活性化していくためにも、先生方とのつながりを強めていくことが最優先課題だと感じました。

悩んだとき、困ったときに頼ることができるのは、同じ赤間の地で学んだ同窓生ではないでしょうか。先輩方のお力をお借りしながら、青年部の活動を広げていきたいと思っています。また、研修会の内容の精選、会員への呼びかけ、結束を強化していき、直方支会の活性化を目指して活動していきたいと考えています。



本年度の歓迎会の様子

### 朝倉支会の活性化を目指して

朝倉支会 牟田 拡充 H20卒

平成28年に組織の活性化を目指して青年部立ち上げの方針が打ち出されましたので、朝倉支会では、役員の方々と話し合い、焦らずに3年計画で青年部活動が支会の年間計画に位置づくように進めることにしました。

まず1年目は、青年部長を選出すること、朝倉支会青年部設立に向けての基礎をつくることに力を注ぎました。青年部長の選出につきましては、私が6月に行われる支会総会において承認され、青年部活動をスムーズに進めることができるようになりました。基礎づくりについては、他支部青年部の方々と情報交換をしたり、青年部の立ち上げや設立総会について話し合ったりすることで方向性が見えてきました。



青年部設立の会（2月）

2年目は、青年部役員の設定、組織づくり、青年部会則づくりの3つを行いました。組織づくりについては、朝倉支会は朝倉市と朝倉郡の2地区の教職員が中心となって運営しているため、それぞれの地区から小学校・中学校の代表者を1名ずつ選出し役員および運営組織の構成を行いました。そして、役員による会議を重ね、会則もでき、ようやく平成30年2月23日に朝倉支部の青年部設立の会と記念講演を開催することができました。本部からは太田会長にもご出席いただき、お言葉を頂くことで城山会、朝倉支会の一員としての自覚を深め、青年部活動の第一歩を踏み出すことができました。

3年目の今年度は、5月に第1回学習会と新会員の歓迎会を行いました。参加者は、会員の半数程度と少ない状況でしたが、会を重ねるごとに更なる親睦と会員としての自覚を深めていきたいと思っています。また、2月は朝倉支会青年部が設立された月として毎年、学習会を行っていく予定です。

最後に、昨年の九州北部豪雨では、朝倉支会に義援金や励ましのお言葉をいただき有り難うございました。改めて同窓の強い絆を感じる事ができました。今後も支会員全員で力を合わせて頑張っていきたいと思っています。

# 福岡教育大学の将来を考える

## ～城山会活動への期待～

＜趣旨説明・司会 本部副会長 谷 友雄＞

2020年を前に、新学習指導要領に合わせた教育内容の充実や大学改革、及び、働き方改革等への対応が求められている。そこで①学生や若年教員に求められる実践的な資質・能力の育成、②学校の働き方改革と教職員の育成、③2020年3月末、就職率90%超、④書道と学生教育等、4つ視点から議論を深めたい。

### 1 教育大学卒業生に身に付けさせたい実践的な資質・能力の育成

副理事・キャリア支援センター長(教授) 生田 淳一

「福教大ブランド」と呼べる資質・能力を身に付けさせ、そのブランドを将来に引き継ぎたい。学生が、新卒・若手情報交換会等で城山会会員による学校での教育実践を聞く機会を通して、自らの教育観を深め、求めるべき教師像を描いている。この会は学生にとって学校での実務や教師像を考えるための貴重な情報源になっている。今後、キャリア支援センターの事業内容に、先輩教員や本学上級生と触れ合う機会をさらに増やし、学生が「自分の目指す教育観や教師像」を具体化できるようにしたい。また、県内各地の教育現場等で「地域に即した教育情報に触れ合う機会」を増やしたい。

### 2 OJTを取り入れた研修と働き方改革

久山町立久原小学校長(元教職大学院教授) 重松 宏明

本校では、指導者としてのメンターと被指導者としてのメンティとを、双方合意の上でペアにし、メンティの教育指導力向上、並びに人間としての成長を目指すメンタリングを実施している。いわゆる「OJTを取り入れた研修」である。

勿論、メンタリングには教材研究は必要であるが、指導案作成や資料作成時間、及び、教師の負担感はかなり減少する。最近、メンティが自分自身の授業課題の改善に向けて、積極的に授業実践をするようになってきた。教職員の中には、全体で拘束される時間が減った分、その時間を計画的に有効活用し、自分に合った仕事のスタイルをつくり出す姿が増え、少しではあるが働き方改革に向けて成果も出始めている。

先ほど、生田教授が述べられた「教育大ブランド」には、教科専門とカウンセリングや学級経営などの教職専門の二つの力が必要と考える。「教育大ブランド」に類似した学修を経験している教職大学院生は、自信をもって働いており、周りから「学び取り方の質が違うよね」と言われることが多い。これは、教科専門と教職専門の両方の力が、効果的に機能しているからだと考えられる。

### 3 平成31年度 就職率90%超へのチャレンジ

就職支援アドバイザー(特命教授) 榎田 也寸志

現在の就職率(講師を含む)は70%程度。これを90%以上にすることが、今後の目指す目標と考える。そのため、入学一年目から学年進行に合わせて、学生が具体的に自分の進路目標を立てるように講座を実施している。順次、①受験地と校種の相談や決定、②志願書の内容や書き方の指導、③筆記試験の対策、④模擬授業や二次面接試験の対策等を実施している。卒業時に向けて、強い決意と確かな実践力を育むためである。卒業時に教員採用試験を受験する学生は500人程度。しかし、個人差・学年差があり、就職支援センターの講座を受ける学生は50～200人程度である。就職支援センターの講座は任意の受講制度のため、受けない学生も多い。就職支援センターの講座を受講するよう働きかける大学教員の協力一致の姿に期待している。教員採用試験では、二次試験の方法が口頭試問などと多様化しており、教職経験豊富な本校卒業生による個別指導への支援や協力があればとも感じている。現在、就職試験の傾向を類型別に整理分析し、来年度に備えている。

### 4 書道を通じた学生の育成

～同窓生意識の涵養を揮毫に込めて～

美術教育講座(教授) 和田 圭壮

書道など芸術を志した学生は、教育職等と並行して自分の芸術性を磨こうとする自己成長モデル・人生設計を描いている場合が多い。そうした学生のニーズに鑑み「全ての学生の夢や目標を拓かせる努力」を行うことが、大学としても大切であると考えられる。そのような大学と学生の地道な努力の積み重ねが、就職率90%以上の達成につながると考える。

このたびの城山会支部・支会旗の作成に当たっては、全ての卒業生が「強い同窓意識や絆を礎に、誇りをもって生きていく」ことを願って揮毫した。支部・支会内の各世代が強く結びつくことで管理職を目指す人が増え、同窓生が福岡県の教育を牽引し、さらに西日本の教育を支える福岡教育大学であって欲しいと考えている。



# わたしの教育実践

## 子どもたちの目が輝く学校づくり

うきは市立小塩小学校 校長 米倉 典子 S60卒



鳥が囀る通学路を通過して、子どもたちが毎朝登校してきます。そして元気な輝く笑顔で校門に立ち、山びこ挨拶を行います。

本校は、自然豊かな山間部の小規模校です。平成30年度は、全校児童21名、職員10名の体制でスタートしました。

学校の教育目標は、「めあてに向かって挑戦し、共に伸びていこうとする子どもの育成」とし、

子どもたちが「**行きたい**」  
保護者の方が「**行かせたい**」  
教職員が「**働きたい**」  
地域の方が「**応援したい**」

と言われるような学校をめざしています。

本年度は特に、豊かな心の育成をめざして、「鍛えよう！ほめよう！」プロジェクト事業を立ち上げました。子どもたちの可能性を信じて、鍛えて、ほめて、伸ばす取組です。テーマは、「晴れの日に体を、雨の日に学びを鍛え、自分の目標に挑戦し続けよう！～全校一斉活動（一輪車・縄跳び・百ます計算・漢字）を通して～」としました。全校一斉活動を晴れの日、雨の日ごとに効果的に行い、「目標設定」「挑む」「振り返る」活動を大切にし、やる気を

引き出して継続的に挑戦していく子どもを育てるものです。

子どもたちは今、全校一斉活動で刺激し合うようになり、切磋琢磨しています。

また、日本一輪車協会の先生や一輪車クラブの子どもたちを招いて、全校一輪車教室も行いました。やはり、本物体験は違います。子どもたちの目が一瞬で輝き、たちまち本気スイッチが入りました。運動会までに、懸命な努力を重ね、子どもたちは大きく成長していくことと思います。

これからも、この事業の取組を継続して行い、ますます子どもたちの目が輝く、明るく活気ある学校づくりを行っていこうと考えています。



一輪車の模範演技

## 与えられた機会を大切に

那珂川市立那珂川中学校 教諭 松本 直大 H16卒



現在勤務している那珂川中学校は各学年4クラス、特別支援学級2クラスの中規模校です。素朴で素直な生徒が多く、生徒たちとともに充実した日々を送っています。現在3年生の学級担任と1年生、3年生の理科の授業を担当しています。その中で、中堅教師として若い教師のモデルとなったり、アドバイスをしたりするなどの「役割」や「責任」を感じるようになりました。

那珂川中学校に赴任してからは、筑紫教育研究所の研究員として2年間授業作りについて学ばせていただくとともに、校内研究の代表授業を行わせていただきました。今年度は、11月に行われる福岡県重点課題研究2年次中間報告会で公開授業を行います。本研究は主題を「思考力・判断力を培い、主体的に表現できる生徒の育成」、副主題を「ICT機器等を活用し、『問い』を追究する授業を通して」とし、生徒の説明活動や交流活動を支援するためにタブレット、パソコンなどのICT機器の活用に入力しています。

本研究では、生徒がICT機器などを活用して、思

考力・判断力を高めることや、表現する力を培っていくことを目指します。まずは生徒がタブレットに慣れるための授業を行ったり、タブレットに入っているソフトの使い方を理解したりと、学校全体で取り組んでいます。このことは私にとって大変勉強になる時間です。公開授業に向け何度も授業改善を行い、自分が納得でき、生徒たちがわくわくするような授業を作っていきたいと思っています。

これから公開授業だけではなく、様々な役割を担っていかなければならないことが多々あると思います。その中で、機会を与えられたことに感謝し、日々研鑽を積み、教師としての力をさらに伸ばしていきたいと思っています。



生徒も授業を参観する校内研究

会員に  
聞く

## 視野を広げ 志をはぐくむ 福岡教育大学

江口 勝 福岡県副知事と太田会長の対談から



### 《太田会長》

こんにちは、福岡教育大学同窓会城山会の会長を務めている太田勝視です。本日は、福岡県政の中核でご活躍中の江口副知事のお話を聞かせていただき、学生や若い会員たちの指標とするとともに同窓会の誇りとして語り継いでまいりたいと思い、この機会を設けていただきました。

### 《江口副知事》

同窓の方々とお会いすると昔のことを思い出して懐かしい気持ちになります。お役に立てるのであれば喜んでお話しいたします。何でも聞いてください。

### 《太田会長》

県庁でどのようなお仕事をなさっておられますか。

### 《江口副知事》

私は昭和52年8月に福岡県庁に入庁しました。

様々な役職を経て現在は三人の副知事の一人として、知事が行う行政のうち、主に、地域振興、土木、建築、環境、防災、私学振興、企画などの仕事を所管し、それぞれの部署の皆さんと共に業務に取り組んでいます。知事の代わりに各地の行事に出かけてご挨拶をすることも多いです。

### 《太田会長》

学生時代の心に残っている友達や先生との思い出をお聞かせください。

### 《江口副知事》

私は、高校時代、将来は何になりたいということあまり真剣に考えていませんでした。しかし、当時、身近な先生へのあこがれがあったので「あんな先生になれたらいいな」という思いがあり、福岡教育大学を選びました。

福岡教育大学への入学は、昭和48年4月でした。中学校教員養成課程社会科です。この課程は全員で16名、うち女性は4名。とても仲が良く、お互いに誘い合って先生の所によく遊びに行っていました。

先生たちもフレンドリーで優しく、私たちが温かく受け入れてくれて、ご自分の専門のお話をいろいろとしてくださいました。フィールドワークにもよく連れて行ってもらいました。

そうしたことが学問への興味を掻き立て、「もっと勉強してみたい」という意欲を湧き立たせてくれたのだと思います。また、そうした自由でアカデミックな雰囲気が、「将来は教職だけに限らず他のことにも挑戦してみよう」という志を持たせてくれたのだと思います。公務員試験を受けたのもそのひとつです。

部活やサークル活動には所属してはいませんでした。公務員試験の準備のために必要だったので熱心に法律学の勉強をしていた記憶はあります。いつも法律の本を抱えてキャンパスを歩いているものだから、先輩からは「君は何学部の学生か?」とよく冷やかされたものでした。

### 《太田会長》

若い後輩へのメッセージを是非、お願いします。

### 《江口副知事》

若い人は、いろいろなことにチャレンジして、多様な経験を積むことが大事だと思っています。チャレンジすることによって、思ってもみなかった道が幾つも見えてきます。思っていた以上の素晴らしい道が拓けてくることもあります。また、仕事をする上でも、無理だと思って最初から諦めず、実際にやってみれば案外うまくいくことがあります。その時々<sup>々</sup>の出会いをチャンスと受け止めてチャレンジし、視野を広げ続けるような学び方や仕事の仕方が大切だと思っています。それぞれのお立場での皆さんの健闘を祈っています。

### 《太田会長》

自分で自分に一定の枠をはめてしまわないことが大切ということですね。意義深いお話をいただきありがとうございました。多くの同窓生が昔を懐かしく思い出すとともに、今、自分が歩んでいる道の意義を見つめ直すことができるものと思います。本日は誠にありがとうございました。

(司会：副会長 谷友雄 報告：幹事長 田中和隆)



10月15日の対談の様子



# 大学時代の思い出



## 回 想

長崎県支部  
小学校課程数学科 S46卒 大久保 敬次

卒業して47年にもなりますが、今でも覚えているのは合格を知ったときです。我が家は貧乏だったので当時二期制の国立大受験が精一杯で、しかも一学期は不合格、教育大も落ちたらそのまま工事現場で働く覚悟で受験しました。すると、一緒に働いていた人が昼食時に新聞を見て「お前の名前が載っているよ。」と言われ確かめて感激しました。昭和42年4月に入学し、奨学金だけでは足りずに、整備中だった大学の陸上競技場でチャイムを聞きながらのアルバイトを始め、級友に受講票を頼んだりして学生生活を楽しみました。

教育実習は附属福岡小、現福津市立津屋崎中にお世話になり、指導案作成のために指導教官と保健室で合宿したのもいい思い出です。卒業後、長崎県内小中高勤務、70歳の現在も短大講師ができるのも教育大のお陰と感謝しています。

## 人生のスタイルの原点が始まる

北九州市支会  
小学校課程教育学・教育心理学科 S47卒 新田 英穂

同期は24名（男8名、女16名）。入学後配属されたのは、心理学教授の研究室で私と女性のSさん二人。立畑卓夫先生。気の合う先生だった。その先生も一年で定年退職。その後には広島から来られた持留英世先生。真面目な先生だった。一緒に焼酎をよく飲んだ。座禅の接心の会にも連れて行ってくださった。学問を離れた場所にも心を求める場のあることを、身をもって知る機会を得た。時間があれば良く研究の話をしてくださった。少し専門書をかじって、分かった様なふりをして質問をしていた。答えは数倍になって帰ってきた。そこからが自分の勉強だった。そんな学習スタイルを教師になっても続けた。

自らも学ぶが先輩や人として年齢に関係なく豊かな人からより多くを学ぶ。退職して10年。今もそのスタイルは続いている。

## スケッチ旅行

福岡市支会  
小学校課程美術科 S47卒 古川 勝敏

昭和43年、我が国が経済成長の期に入り、全国的に大学紛争が拡大していく時代の入学です。

学生生活に慣れる間もなく美術科の伝統行事、スケッチ旅行が待っていました。1・2年全員、小・中学課程合同です。目的地は鹿児島。現地に着くや否やスケッチに取り掛かり、夜は批評会です。教授陣による辛辣な批評の洗礼に、技量の未熟さをこれほど感じる時はありません。しかし、この合宿は、美術科同期生の連帯をも生みます。実は、男子連中は、羽目を外して先輩にこっぴどく説教を受けましたが、却ってそれ以後は、先輩方にとっても可愛がってもらいました。学年の結束も強くなったことを覚えています。恩師を招いて美術科の同窓会を開催していますが、小・中学課程一緒に各地から多くの仲間が集います。この美術科同窓生との絆は、一生涯の宝です。

## 入学のとき

鞍手支会  
中学校課程技術科 S47卒 高木 正雄

大学へ入る最初の行事「入学式」は忘れられませんが入学式の内容はまったく記憶にないのですが通用門から会場の体育館までの砂利道、まだ舗装がなく、当日は天気が悪く砂利道がぬかるんでいました。折角の新品の革靴をはいてこれからの学生生活に胸を膨らませ体育館まで定年坂を登っていきましたが、会場に着くとなんと靴は泥んこ、しょっぱなから何てことだ、ついてないな。これが大学での思い出としていつも頭の隅に残っています。私の入学は昭和42年4月なので、この事は、42年入学の諸兄には同じような記憶がある方もおられるのではないのでしょうか。定年退職後、就職支援センターに勤めさせて頂く機会があり、久しぶりに大学構内をゆっくり見ることが出来ました。42年当時、まだ植えたばかりの苗木であった定年坂の両側の楠木が、見事に大木になり茂っているのを見て歴史を感じました。

# 第二の人生を生き生きと

## 「真の私の人生」は退職後から始まる

佐賀県支部 S53卒 山崎 健彦

退職まで残り5年という時に渋谷栄一氏が大事にしていた「天意重夕陽、人間貴晩晴」の言葉に出会った。『教員人生は、60歳までという「限られた人生」だ。自分で切り拓いていく「真の人生」は、教員人生を終えてから始まる』と認識。生涯の師から「退職後は、趣味型で生きるか。社会貢献型で生きるか。」と問われた私は、教員時代にお世話になった地域社会に対する御礼を込めて社会貢献型で生きると回答した。

ご縁があって武雄市の社会教育指導員、武雄市主任児童員、母校武雄高校の学校評議員、調停員、自治会長、公益財団法人モラロジー研究所教育者講師等。更には、先祖から受け継いでいる畑で野菜作りが、今の姿である。年金受給の62歳となり、大学の同級生（小体、ハンドボール部）である連れ合いと人生後半を歩んでいる。

今後心身ともに健康で晩晴を大事にしながら「真の私の人生」を送っていきたい。



大事な「49 小体の仲間」(後列右端が筆者)

## 教育と教養で恩返しの日々を！

飯塚支会 S55卒 中川 雅彦

昨年度、退職を迎える年は勤務校の閉校と小中一貫校の開校の準備が重なり、多忙を極めました。有終の美を飾るべく全てをやり切り、多くの方々の祝福と共に退職。充実した教職38年間にピリオドを打ちました。在職中出会った教え子達、先生方、保護者、地域の方々に心から感謝です。

退職後の人生は何も考えてなかった私ですが、市当局のご配慮で、4月から飯塚市教育委員会学校教育課指導主事として勤務することになりました。地元の退職校長会の先輩が「われわれ退職者に必要なものは“教養”と“教育”である」と。「これこそ、ぼけないで頑張れる秘訣なのだ」と。実は「教養」とは「今日、用がある」、「教育」とは「今日、行くところがある」との有り難いご教示でした。38年間、教育現場を駆け抜けてきた私に、お役所勤めは似合わないと思っていましたが、「今日も行くところがある」と感謝しながら、後に続く後輩の先生方、飯塚市の子どものために恩返しの日々を送っております。



教育委員会での仕事風景

### ◆ 会報誌への投稿を！ ◆

#### ◇ 「第二の人生を生き生きと」欄

定年後の生き生き人生を紹介しています。ボランティア活動や調査研究、著書出版、趣味、テーマを決めた旅など、旺盛な活動や体験を待っています。内容の概略を連絡下さい。

#### ◇ 「城山文藝」欄

文芸面での会員の人材リストを整備していますが、登録者数はまだわずかです。短歌、俳句、川柳、絵画、写真、書などの作品を待っています。

★自薦、他薦いづれも結構です。気軽に事務局まで。

### ◆ 事務局だより ◆

事務局は、本部・各支部各支会・幹事会等の運営が円滑に進むように各事業の案内発送、資料準備等の連絡・集約を行っています。

住所変更などについては下記宛ご連絡をお願いいたします。

城山会事務局 Tel 0940-33-2211

学生会館2階

開室時間：平日9時～16時(土日祝休)

住所、E-Mailは会報1ページ上部記載

# 教師をめざして

## あこがれの先生をめざして

中等教育教員養成課程 英語専攻 2年 武末 天晴



私が教師を本格的に目指し始めたのは、中学校1年生くらいからです。それから、ある先生のようにになりたいという一心で福岡教育大学に進学し、今に至ります。その先生とは、中学校1,2年時の担任であり部活動の顧問でもあった先生です。先生は、学級での指導はもちろんのこと、部活動にも積極的に非常に情熱がある先生でした。何度も怒鳴られ、厳しい指導を受けてきたことを今でも鮮明に覚えています。しかし、その先生を嫌いになったことは1度もありませんでした。なぜなら、指導の中にも、わたしたち

生徒に対する愛情がこもっていたからです。私はこの先生に出会って、生徒のことを心から想い、生徒の人間形成に真摯に向き合う教師という職業はこんなに素敵なものなのだと感じ目指すようになりました。中学校の時に出会った先生のように生徒を愛し、生徒からも愛されるような教師を目指そうと決心しました。

しかし、福岡教育大学に入学して教職について学んだり実習に行ったりして、教師という仕事の大変さを痛感しました。さらに、実際に教職に就くためには、教員採用試験という高校受験や大学受験とは比べものにならないくらい高い壁を乗り越えなければいけません。決して簡単ではありませんが、きつと乗り越えてみせます。あの先生に追いつくため、大学に通わせてくれている親のため、必ず教師になって夢を実現させます。

## ボランティア活動を生かして

初等教育教員養成課程 3年 笹原 遥香



本学に入学して、ボランティア活動に参加し、様々な経験をさせていただきました。私がボランティア活動をしている理由は、2つあります。1つ目は、現代の子どもの実態や、子どもを取り巻く環境を知りたいからです。2つ目は、教師になった時に即戦力となれるように、授業づくりや子どもとの接し方を学びたいと思ったからです。

私は今までに、小学校での学習支援のボランティアや、海外の子どもと関わるボランティア、子どもとの遊びの場やボランティア研修会の企画・運営をする活動を行ってきました。

具体的には、アンビシャス青年リーダー福岡地域企画運営委員会に所属し、放課後や休日の遊びの場やイベントのコーディネートをしたり、子どもと関わる活動に興味のある若者を対象にした研修会の企画運営をしたりしています。この活動を通して学んだことは、地域の方々と子ども同士、ボランティア同士をつなぐことの大切さと、リーダーとしてサポートする方法です。つなぐことの大切さに関しては、レクリエーションの中で、子ども同士が協力し合えるような環境をつくる活動をしています。これは、私が教師になって、学級経営をする上で役に立

つ経験になると思います。また、ボランティア活動をしている学生同士がつながることで、それぞれが行っている活動に刺激を受け、自分のスキルアップになります。

リーダーとしてサポートする力の向上に関しては、魅力的な企画になるように、皆の考えをまとめたり、他のメンバーが任された役割のサポートをしてスキルアップにつなげたりしています。

ボランティアで出会った子どもの笑顔を見たり、感謝の言葉をもらったりすることが、活動の原動力になっています。私は、大学生活の中で行ったボランティア活動の経験を生かして、子どもに学ぶことの楽しさを伝えたり、協力して何かを達成させる喜びを感じさせたりできる教師になりたいです。



小学校での学習指導支援

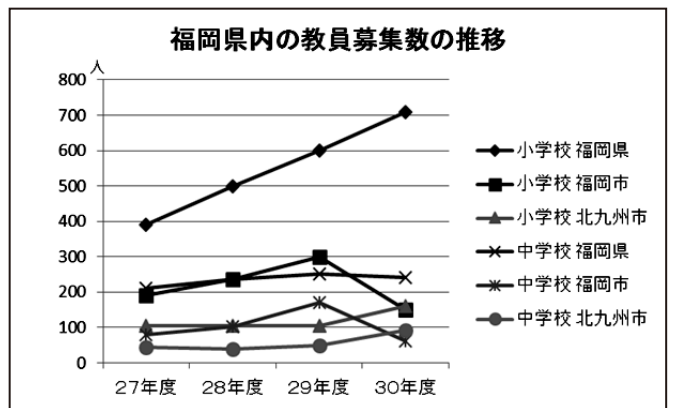
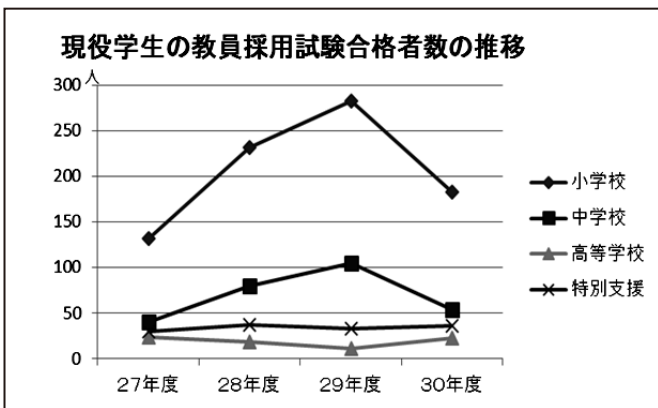
# 教員採用試験の状況について

福岡教育大学 キャリア支援センター

## 1. 本学現役学生の教員採用試験の状況

平成30年度の全国の自治体による「平成31年度教員採用候補者選考試験」の1次試験は7月に、最終試験は8月初旬から9月下旬にかけて実施されました。

下記のグラフは過去4年間の本学現役学生の教員採用試験合格者数です。数値は、延べ人数になっています。本年度の受験者の実数は555名で、最終合格者数は実数284名（延べ295名）となり、昨年度より減少しました。教員募集数は、福岡県と北九州市は増加しましたが、福岡市は小学校と中学校で大幅に減少しました。



## 2. 福岡県内の教員採用試験の状況

昨年度まで異なっていた福岡市の試験日が、本年度から変更されて福岡県・北九州市と同日になり、福岡県・北九州市と福岡市が併願できなくなりました。また、福岡市は、募集数が激減したことで出願数も激減しました。

福岡県・福岡市・北九州市の実合格者数は218名（昨年度は255名）でした。合格率は、福岡県・北九州市は向上しましたが、福岡市は低下しました。

本年度の結果を踏まえながら、キャリア支援センターでは、本学学生の希望の進路実現に向けて、就職支援活動の充実を図ります。

### 過去4年間の本学現役卒業生の福岡県内の合格状況（平成30年度は平成30年11月26日現在）

実施年度	小学校				中学校				高等学校				特別支援学校				
	募集人数	出願数	最終合格	合格率	募集人数	出願数	最終合格	合格率	募集人数	出願数	最終合格	合格率	募集人数	出願数	最終合格	合格率	
福岡県	27	390	112	59	52.7%	210	68	24	35.3%	173	74	17	23.0%	55	18	9	50.0%
	28	500	128	90	70.3%	235	95	42	44.2%	148	48	14	29.2%	60	20	13	65.0%
	29	600	154	125	81.2%	250	86	40	46.5%	161	54	7	13.0%	80	21	10	47.6%
	30	710	112	97	86.6%	240	65	26	40.0%	173	59	14	23.7%	110	15	9	60.0%
福岡市	27	190	38	9	23.7%	80	25	4	16.0%	7	0	0	0.0%	30	15	5	33.3%
	28	235	111	44	39.6%	103	61	17	27.9%	7	1	0	0.0%	43	17	11	64.7%
	29	300	170	90	52.9%	171	119	38	31.9%	6	1	0	0.0%	60	29	15	51.7%
	30	150	73	24	32.9%	61	43	2	4.7%	8	2	0	0.0%	70	16	8	50.0%
北九州市	27	105	26	17	65.4%	45	11	3	27.3%	福岡県に含む				25	8	7	87.5%
	28	105	33	22	66.7%	40	22	7	31.8%					25	5	3	60.0%
	29	105	12	9	75.0%	50	27	8	29.6%					45	3	3	100.0%
	30	160	25	22	88.0%	93	21	10	47.6%					50	6	6	100.0%

平成30年度

役員等の名簿

◆役員

会長	太田 勝 視
副会長(福岡市)	阿部 二三子
副会長(北九州市)	弓場 和 紀
副会長(福岡)	白石 哲 雄
副会長(北九州)	末吉 靖 彦
副会長(北筑後)	矢野 俊 一
副会長(南筑後)	安德 和 幸
副会長(筑豊)	西園 雅 幸
副会長(京築)	山田 雅 明
副会長(高校)	井上 善 隆
副会長(各県)	角 正 武
副会長(女性部)	竹井 久美子
副会長(本部)	谷 友 雄
幹事長(事務局)	田中 和 隆
副幹事長(福岡)	安部 常 美
副幹事長(北九州)	黒水 律 子
副幹事長(北筑後)	中原 浩
副幹事長(南筑後)	鶴 欣 二
副幹事長(筑豊)	松原 潔
副幹事長(事務局)	田原 正文
副幹事長(事務局)	鍋島 直 明
副幹事長(事務局)	肥後 弘 美
副幹事長(事務局)	笠 宏 照
書記	執行 利 雄
書記	中島 健 次
会計	穴井 仁 人
会計	古賀 真理子
事務局	中村 和 美
事務局	大森 美 香

◆会計監査

福岡	釜瀬 計
北九	神崎 恭 行
筑豊	立和田 正 美
筑後	猪口 有 三

◆幹事

◎：部長 ○：副部長

組 織 部	福岡市	田村 郁 夫
	北九州市	多久和 潔
	福岡	森田 正 博
	北九州	◎垂水 隆
	北筑後	平田 敬 介
事 業 部	南筑後	吉原 守 生
	筑豊	○國本 裕 介
	京築	吉兼 法 子
	福岡市	大戸 和 廣
	北九州市	楠本 孝 一
広 報 部	福岡	○白木 照 久
	北九州	日高 孝 一
	北筑後	高山 久 美
	南筑後	◎坂本 延 生
	筑豊	山本 穰
	京築	尾崎 和 人
	福岡市	釘宮 正 次
組 織 部	北九州市	半田 康 行
	福岡	高川 尚 美
	北九州	高宮 久 生
	北筑後	◎上野 幹 久
	南筑後	○横大路 智 毅
組 織 部	筑豊	江藤 涼 子
	京築	入江 勝 美

◆大学支援委員会役員

委員長	今 林 久	
副委員長	中岡 晴 彦	清 武 輝
	松井 明 子	城 後 武 史
	中島 幸 男	松 岡 賛
	山本 直 俊	杉 下 守
事務局長	毛 利 公 亮	

女 性 部	福岡市	○西川 圭 子
	北九州市	守田 孝 子
	福岡	段 美穂子
	北九州	井上 俊 子
	北筑後	◎宮崎 信 子
	南筑後	古江 雅 子
	筑豊	勇 憲 子
	京築	丸田 さとみ
	高校等	田中 浩 子
	青 年 部	福岡市
北九州市		桑園 正 憲
福岡		○吉村 圭 司
北九州		中村 芳 雄
北筑後		関 和 浩
南筑後		○平井 陽 伸
筑豊		國本 裕 司
京築		○森山 隆 太

◆支会・支部長

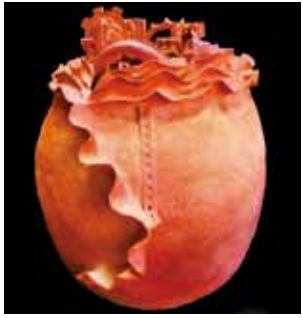
福岡市	支会長	赤池 成 昭
	幹事長	中村 親 良
北九州市	支会長	高木 眞
	幹事長	花田 博 之
福 岡	糟屋	今長谷 寛
	糸島	木村 英 樹
	筑紫	三笥 英 二
	宗像	水崎 浩 克
	大学	和田 圭 壮
北九州	遠賀	木原 貞 美
	中間	山中 栄 夫
	鞍手	塩川 英 治
北筑後	直方	與古光 宏
	朝倉	吉田 英 雄
	小郡三井	福永 昌 也
	浮羽	樋口 則 之
	久留米	伊藤 正 博
南筑後	三潞	牟田口 達 朗
	柳川みやま	原 猛 彦
	大川	武田 淳
	八女	東 博 臣
	大牟田	吉田 博 史
筑 豊	嘉穂	内藤 正 登
	飯塚	内園 雅 浩
	山田	甲斐 治 夫
京 築	田川市	窪田 睦 朗
	田川郡	角崎 計 介
県 立 高 校	京都・行橋	村上 佳 正
	築上・豊前	小林 正 尚
佐賀県	支会長	城戸 英 敏
	幹事長	木村 賢 二
宮崎県	支部長	青木 一 記
	事務局	白水 久 夫
長崎県	支部長	南中道 隆
	事務局	大久保 朋 広
山口県	支部長	秋山 団 一
	事務局	並川 和 彦
熊本県	支部長	重枝 良 明
	事務局	町田 英 利
大分県	支部長	木山 俊 夫
	事務局	岩下 佳 史
大分県	支部長	岩尾 亮
	事務局	伊東 伸一郎

事業実績

平成30年12月現在

<b>4月</b>	4日(水) 大学入学式
	14日(土) 会計監査会・役員会
	<b>29日(日) 第43回定期総会</b>
<b>5月</b>	13日(日) 幹事会／支会幹事長会
<b>6月</b>	1日(金) 大学開学記念日
	2日(土) 大牟田支会総会
	9日(土) 大分県保護者説明会参加 朝倉／大川／田川郡支会総会 広島県保護者説明会参加
	10日(日) 久留米支会総会
	16日(土) 鞍手／田川市支会総会 熊本県保護者説明会参加
	17日(日) 福岡市支会総会
	22日(金) 浮羽支会総会
	23日(土) 宗像／直方支会総会 長崎県保護者説明会参加
	24日(日) 飯塚支会総会
	29日(金) 糸島／山田支会総会
	30日(土) 北九州市／遠賀／八女支会総会
<b>7月</b>	1日(日) 幹事会
	7日(土) 山口県支部総会
	14日(土) 宮崎県支部総会
	20日(金) 大学支会総会
	21日(土) 三潞支会総会／役員会・事務局会
	27日(金) 筑紫支会総会
	28日(土) 小郡・三井／嘉穂支会総会
<b>8月</b>	4日(土) 柳川・みやま支会総会各県支部交流会
	<b>5日(日) 夏期研修会</b>
	18日(土) 県立学校・高校支会総会
	19日(日) 拡大青年部長会
	31日(金) 中間支会総会
<b>9月</b>	1日(土) 糟屋支会総会
	21日(金) 大学卒業式・修了式
	22日(土) 組織部・青年部会 京築地区青年部研修会
<b>10月</b>	13日(土) 京築同窓の集い 北筑後／南筑後地区拡大支会長会
	14日(日) 北九州市女性部年次会/広報部会
	20日(土) 北九州地区拡大支会長会
	<b>27日(土) 新卒・若手会員情報交換会</b>
	28日(日) 女性部幹事会
<b>11月</b>	3日(土) 筑豊地区拡大支会長会
	10日(土) 音楽同窓の会
	17日(土) 福岡地区拡大支会長会
	22日(木) 筑紫支会激励会・若者の会
	23日(金) 北九州市同窓の集い
	24日(土) 佐賀県支部総会
	25日(日) 福岡市拡大支会長会
<b>12月</b>	2日(日) 役員会／幹事会(組織・青年・事業・広報部)
	15日(土) 顧問会・大学支援委員会
<b>1月</b>	19日(土) 宗像支会新年若手会員激励の会
	20日(日) 役員会
	25日(金) 三潞支会盛年部発足会
	26日(土) 大分県支部発足総会
<b>2月</b>	3日(日) 女性部2月の集い
	9日(土) 久留米支会教育講演会
	24日(日) 支会長会
<b>3月</b>	21日(木) 田川市若手教員授業づくりセミナー
	25日(月) 大学卒業式・修了式

城山文藝



陶芸

「アナログ」  
昭和49年卒 松尾 行洋  
(柳川みやま支会)

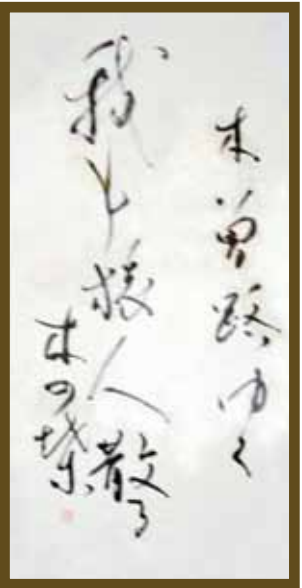


「耳納山麓」  
昭和35年卒 村木 敏明  
(久留米支会)



いにしえにたたく  
「古に佇む」  
昭和53年卒 陶山 高義  
(八女支会)

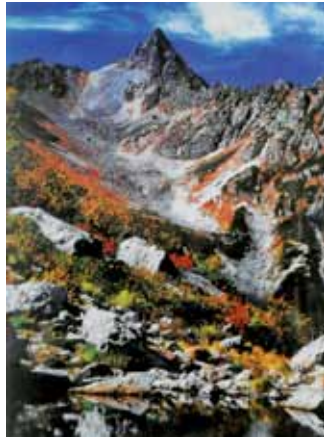
絵画



書

昭和52年卒 諸石 壽人  
(久留米支会)

「木曾路ゆく我も旅人散る木の葉」



「槍ヶ岳の秋」  
昭和30年卒 中村 肇  
(三潯支会)

写真



「慈愛」  
昭和55年卒 澤山 頼子  
(福岡市支会)

革工芸

短歌

昭和48年卒 亀岡 靖  
(高校支会)  
かがり火の火影勢ふ能舞台  
シテの出誘ふ笛の鳴り出づ

病める師の舞う天人の面寂し  
二の松辺りに揺れて進みつつ  
ワキ僧に斜交ひ佇てる孫次郎  
まなじりに深く切れて妖しも  
(孫次郎=若い女面)

昭和51年卒 一俣 実枝  
(三潯支会)  
陽に透けば花にも見えてふせ障子  
破れ重ねて孫等育てり

海色のクレヨンばかり五色とも  
短くなつて船旅終る  
鳴き声の主を探して障子繰る  
美声に似付かぬ茶色き蛙

「日々是好日」



昭和26年卒 藤瀬三枝子  
(福岡市支会)

編集後記

今年、異常気象や自然災害に見舞われた多難な一年でした。昨年の会報誌に掲載した広島県熊野町の林教育長のご自宅も被災されており、一日も早い復興を祈っています。  
今年も広報部では、会員の声が聞こえる会報誌づくりをめざし取り組んでいきたいと考えています。